

理事長退任の挨拶

日本周産期メンタルヘルス学会前理事長

岡野 禎治

この度 2019 年 3 月 31 日をもって日本周産期メンタルヘルス学会の理事長を任期満了により退任いたしました。在任中は、正会員をはじめ、評議員、理事、顧問の皆様におかれまして、長期にわたり格別のご厚情を賜り誠に有り難く厚く御礼申し上げます。

本学会は、周産期の母子のメンタルヘルス領域に焦点を絞った学会であり、目的として「妊産褥婦のメンタルヘルスの発展・啓発に寄与すること」をうたっており、そのルーツは 2004 年 11 月に始まった第 1 回日本周産期メンタルヘルス研究会に端を発しております。この研究会のメンバーは、精神科、産婦人科、心療内科、小児科の医師、そして助産師、看護師、保健師、臨床心理士などの多様な領域の研究者から構成されたことが特徴でした。毎秋開催される学術集会は、精神科学、産婦人科学、看護学（助産、精神看護）の 3 つの領域からの大会長を選出して、輪番制によって今日まで開催されています。発足当初の研究会は、約 40 名の参加者と 6 題ほどの演題と小規模でしたが、その後は回を重ねるとともに学術集会として充実してきました。2014 年 11 月に「日本周産期メンタルヘルス学会」として改組し、本学会の機関誌として「日本周産期メンタルヘルス学会学会誌」を毎年刊行しております。2015 年 4 月には、日本学術会議の協力学術研究団体の指定を受けました。そして、2018 年 10 月の第 15 回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会は参加者約 900 名と成功裏に開催され、会員数も約 550 名となり中規模の学会となりました。

私は、研究会の創設時（2003 年 12 月）から理事長として長期にわたり運営に携わり、本学会の大きな目的である周産期の母子のメンタルヘルスに関連する領域の学術研究、調査研究、広報、啓発、その他必要な事業の推進に努めてまいりました。その中でも、2017 年に日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会と本学会の 3 者が厚生労働省児童家庭課から妊産褥婦のメンタルヘルスに関するヒアリングを受けて、産褥婦の定期健診において産後のメンタルヘルスのスクリーニング体制（EPDS、2 項目質問法）が実現したことは大きな成果であったと思います。改めて、日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会の皆様に心より感謝申し上げます。ただ、多様な領域から構成された本学会の特徴は、利点もありますが、反面、個々の領域に偏在しがちになります。本学会の運営には、包括的なバランスを常に心がけることが必要であると思います。

このような状況の中、今回私は任期満了により理事長を退任いたしますが、後任には鈴木利人先生が就任し、学会運営が継続されるとともにさらに発展することが期待されます。私自身は、今後 1 年間は理事を拝命いたしましたので、新体制のもと本学会の発展に寄与できるよう努めてまいります。引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今後の日本周産期メンタルヘルス学会のさらなる発展を祈念して私の理事長退任のご挨拶とさせていただきます。

2019 年 4 月吉日